



2006 年世界難民の日・フォーラム〈希望〉
午前の部

- 10:00-10:20 主催者挨拶:ロバート・ロビンソン UNHCR 駐日代表
Video Messages: グテーレス高等弁務官及び緒方 JICA 理事長

司会:長有紀枝(ジャパン・プラットフォーム評議会アドバイザー)
岸守一(UNHCR 駐日事務所副代表)
- 10:20-11:30 Panel Discussion 「人道支援における日本のレシピ」
進行役:岸守 UNHCR 駐日副代表

(1)バンコク会合の報告
* お手元の「バンコク・レシピ会合の議事録」及び UNHCR 駐日事務所機関誌「Refugee is...」の中の年代別世界地図をご参照ください。

1980 年代のレシピ:熊岡路也(JVC 代表理事)
1990 年代のレシピ:木山啓子(JEN 事務局長)
2000 年以降のレシピ:高松幸司(ジャパン・プラットフォーム事務局長)

(2)コメンテーター
*このタイミングで「質問表」を回収させていただきます。

柳瀬房子(難民を助ける会理事長)
百瀬和元(元朝日新聞編集委員)
星野俊也(大阪大学公共政策大学院教授)
- 11:30-12:00 日本 UNHCR・NGO フォーラム(J-FUN:Japan Forum of UNHCR and NGOs)

(1)パリーナック(PARinAC:Partner in Action)から J-FUN へ
石井宏明(ピースウィンズ・ジャパン代表理事、元パリーナック共同議長)

(2)J-FUN の活動紹介
戸倉由紀枝(JEN)による東京ヴェルディ 1969 チャリティ・サッカー・ビデオ紹介

(3)J-FUN の立ち上げ
共同議長(UNHCR 岸守副代表、ワールド・ビジョン・ジャパン高瀬一使徒海外事業部長)
及び宗田勝也氏(「難民ナウ」主催)による京都出張報告(ラジオ「難民ナウ」に 6 月 24 日
及び 7 月 1 日出演。URL http://www.geocities.jp/nanmin_now/)。

J-FUN 発足メンバーの紹介。

* * * * *

パリナックから J-FUN へ: UNHCR と NGO とのパートナーシップの変遷
From PARinAC (Partnership in Action) to J-FUN (Japan Forum for UNHCR and NGOs)

約半世紀も前に国連総会で採択された UNHCR 事務所規程 (1950 年) でも予見されたように、難民保護とその恒久的解決を図る UNHCR の任務には民間機関 (private organizations) との連携・調整が必要であると想定されていました。『オスロ宣言および行動計画』により難民支援と保護活動における UNHCR と NGOs の連絡・提携をより強固とするためにパリナック (Partnership in Action: PARinAC) という枠組が 1994 年に設立されるに至りました。その後、UNHCR と NGO は難民支援の現場で協働関係を築き、執行準備委員会 (Pre-Excom) への参加を通して連携を促進してきました。こうしてパリナックはその歴史的使命を終え、発展的解消を遂げました。

しかしこれは難民保護・支援の必要性の解消を意味するものではありません。UNHCR 駐日事務所と日本の NGO は、パリナックの精神を受け継ぐ連絡・連携の枠組として、2006 年度前半の準備期間の後、J-FUN を発足することを決定しました。

J-FUN (Japan Forum for UNHCR and NGOs - 日本 UNHCR・NGO 評議会) とは、難民支援と保護活動に従事する団体が自由に参加できる開かれたフォーラムであり、「顔 (Face, Visibility)」、「声 (Voice Advocacy)」、「手足 (Operation, Research)」をテーマに活動します。

顔 (Face, Visibility)

難民・人道支援は数学とは異なり、解答は一つではありません。J-FUN では、日本の NGO と UNHCR 駐日事務所と一緒に、「日本発の人道支援 (日本のレシピを含む)」を模索します。

声 (Voice, Advocacy)

世界には多くの忘れ去られた難民・避難民がいて、支援する NGO の苦労も一方ならぬものがあります。J-FUN は、難民や現場で働く人々の声を日本の人たちに伝えていきたいと思ひます。

手足 (Operation, Research)

日本国内外を問わず、UNHCR と NGO の活動はフィールド (現場) が中心です。J-FUN は、他の国連機関や外務省、JICA、学識者等と連携しつつ、現場での仕事の質を上げることを目指します。

さらに、ともすれば深刻になりがちな難民・人道支援に、FUN (楽しさ、面白さ) の要素を加味していくことも J-FUN の任務と考えております。たとえば、『ソトコト 5 月号』では、日本人の料理人がタイの難民キャンプで手に入る食材を使って焼きおにぎりや肉じゃがをつくり、代わりに難民のお母さん方からカレン族の料理を学ぶデモンストレーションを取り上げてくれましたが、「食」を通じて難民支援を考えていただく契機になればと思います。また、本日のチャリティ・サッカーの紹介にもあったように、スポーツを通じて難民支援を感じていただければとも思ひます。

J-FUN の活動が、人道支援における日本のレシピ (創意工夫) の一つとして有意義なものとなるように、また日本の NGO と外務省及び経団連のコンソーシアムであるジャパン・プラットフォームとも連携しながら、メンバー一同頑張って活動していきたいと考えております。皆様のご声援を宜しくお願い申し上げます。

J-FUN 発足メンバー (2006 年 6 月 24 日現在、21 団体・機関)

難民を助ける会 Association for Aid and Relief
アデオ・ジャパン ADEO Japan
アムダ The Association of Medical Doctors of Asia
アドラ・ジャパン Adventist Development and Relief Agency
緑のサヘル AGS Japan
日本アフリカ協議会 Africa Japan Forum
ブリッジ・エーシア・ジャパン Bridge Asia Japan
BHN テレコム支援協議会 Telecom for Basic Human Needs
ケア・インターナショナル・ジャパン Care International Japan
国際協力 NGO センター Japanese NGO Centre for International Cooperation

難民支援協会 Japan Association for Refugees
ジャパン・プラットフォーム Japan Platform
ジェン JEN
日本赤十字社 Japan Red Cross
ピース・ウインズ・ジャパン Peace Winds Japan
難民事業本部 Refugee Assistance Headquarters
セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン Save the Children Japan
シャンティ国際ボランティア会 Shanti Volunteer Association
ワールド・ヴィジョン・ジャパン World Vision Japan
日本 UNHCR 協会 Japan Association for UNHCR
UNHCR 駐日事務所 UNHCR Representation in Japan

「世界難民の日」フォーラム 式次第 <午後の部>

日時 2006年6月24日

会場 UNハウス 3階 ウ・タント国際会議場

13:45～13:50	ビデオクリップ上映
13:50～14:00	「UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)と日本 UNHCR 協会についてのご紹介」 中村恵 (日本 UNHCR 協会)
14:00～15:45	<p>パネルディスカッション「私たちにできること」</p> <p>困難に直面している難民の人々の状況や必要とする支援について、日本の市民社会や企業は何ができるか、いくつかの事例を含め皆さんとともに考えます。</p> <p>モデレーター： 今井義典 (NHK 解説主幹)</p> <p>パネリスト： 浅野万里子 (ガールスカウト日本連盟 国際書記) 金井昭雄 (株式会社富士メガネ 会長) 清水康子 (UNHCR 職員、JICA 援助協調シニア・アドバイザー) 高橋陽子 (日本フィランソロピー協会 理事長) 毛受敏浩 (日本国際交流センター チーフ・プログラムオフィサー)</p> <p>(五十音順・敬省略)</p>
16:00～17:00	懇親会(会場:UNハウス 2階) Gi!nz ミニ・コンサート

午後の部

パネリスト (五十音順)

あきの まりこ
浅野 万里子

(社)ガールスカウト日本連盟 国際書記

1951年、神戸生まれ。小学校6年でガールスカウト入団。2003年より国際書記。93年のガールスカウト世界連盟「平和提唱」をうけ、94年から「ピースパック」事業開始。文房具や日用品、メッセージを全国の会員や一般から集め、パキスタンのアフガン難民の子どもたちに10年間、約16万個のパック、7万足の靴、3万個のボールを寄贈。去年からはピースパックプロジェクト II ～ミャンマー難民の子どもたちとともに～を開始。タイのミャンマー難民に寄贈。

かない あきお
金井 昭雄

(株)富士メガネ 会長

1942年、樺太・豊原市生まれ。66年、早稲田大学商学部卒業。72年、サザン・カリフォルニア・カレッジ・オブ・オプトメトリー (SCCO) 卒業。カリフォルニア州オプトメトリー営業ライセンス取得、アルタディナ市で実務に就く。73年に帰国し、富士メガネ入社。96年、社長に就任。現会長。83年、海外で難民の視力を検査して各自に適した眼鏡を寄贈する活動を開始。タイ・インドシナ難民、ネパール・ブータン難民、アルメニア、アゼルバイジャンなどで実施。通算十万余組を寄贈。

しみず やすこ
清水 康子

UNHCR職員

1994年、JPOとしてUNHCR ジュネーブ本部に配属される。その後、チェチェン緊急援助、ウガンダ、コンボ、アルバニアなどを経て、現在 JICA (独立行政法人国際協力機構) へ出向中。企画・調整部/社会開発部 援助協調シニア・アドバイザー。

たかはし ようこ
高橋 陽子

(社)日本フィランソロピー協会 理事長

岡山県出身。津田塾大学卒。高校教師を経て、上智大学で専門カウンセラーの認定を受けた後、関東学院中学・高校の心理カウンセリングに従事、91年から日本フィランソロピー協会に勤務、個人や企業による社会貢献活動のコーディネートに携わる。事務局長、常任理事を経て、2001年6月から理事長。著書に「フィランソロピー入門」(海南書房)、「60歳からのいきいきボランティア入門」(日本加除出版)、「社会貢献へようこそ」編著(求龍堂)等。

めんじゅ としひろ
毛受 敏浩

(財)日本国際交流センター チーフ・プログラムオフィサー

慶応大学法学部卒。米国エバグリーン州立大学修士課程修了。兵庫県庁に勤務後、1988年より日本国際交流センターで草の根の国際交流・協力及び自治体の国際活動、NGOや市民社会について調査研究とコーディネーションを担当。慶應義塾大学、静岡文化芸術大学で非常勤講師(NGO、NPO論)を兼務。2003年に国際交流・協力実践者全国会議を組織し、第一回、第三回実行委員長を務めた。地球市民賞選考委員(国際交流基金)、草の根技術協力事業外部有識者(JICA)等。著書に「草の根の国際交流と国際協力」(明石書店、2003)、「地球市民ネットワーク」(アルク、1997)等。

モデレーター

いまい よしのり
今井 義典

NHK 解説主幹

1968年、NHKに記者として入局。78年アメリカ総局ワシントン特派員をはじめ、国際記者として活躍。86年「NHKニュースワイド」、88年「ワールドニュース」キャスター。93年「NHKニュースおはよう日本」初代キャスター。94年からは同番組のエグゼクティブプロデューサー。その後ヨーロッパ総局長(在ロンドン)を経て解説委員に転じ、解説委員長を務めた後、現職。